

MP-30T 3tハイブリッド 油圧ガレージジャッキ 取扱説明書

生産物賠償責任(PL)保険付

この度は、3tハイブリッド油圧ガレージジャッキ MP-30Tをお買い求めいただきましてありがとうございます。
幸いです。

この「取扱説明書」はMP-30Tを安全にご使用いただく為のガイドブックです。

弊社製3tハイブリッド油圧ガレージジャッキを初めてお使いいただく方はもちろん、すでにご使用された経験をお持ちの方にも、知識や操作方法を再確認する上でお役に立つものと考えております。

この「取扱説明書」を最後までよくお読みになり、内容をご理解した上で正しくご使用くださいますようお願い致します。又、常にこの「取扱説明書」をお手元に置いて作業することをおすすめ致します。

※自動車整備に関して、一般的な知識のある方が使用することを前提としています。

※一部の車種でジャッキセット位置の形状や位置等により使用できない場合があります。詳しくは、カーディーラー又は販売店にご相談ください。

※記載されているイラストはイメージです。

もくじ

| | |
|----------------------|-------|
| ①安全に関するご注意 | P.1 |
| ②ジャッキの使用条件 | P.2 |
| ③使用用途 | P.2 |
| ④各部の名称 | P.2 |
| ⑤有効範囲 | P.3 |
| ⑥使用前の準備 | P.3 |
| ⑦フロント・リヤからのジャッキアップ手順 | P.3~4 |
| ⑧お手入れ | P.4 |
| ⑨ジャッキオイルの補充及び点検方法 | P.4~5 |
| ⑩エア抜きの方法 | P.5~6 |
| ⑪故障かなと思った時 | P.6 |
| ⑫製品仕様 | P.6 |
| ⑬保証規定／保証書 | P.7 |

① 安全に関するご注意 ※本製品を安全に正しくお使いいただく為に必ずお守りください。

本製品をご使用前に取扱説明書(本書)をよく読み、十分理解した上で使用してください。取扱説明書には重要事項の説明が記載されています。記載内容に従わずに使用した場合、重大な事故につながります。

警告

重要

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡又は重傷を負う可能性が想定される内容、及び物的(車両等)損害の発生が想定される内容を示しています。

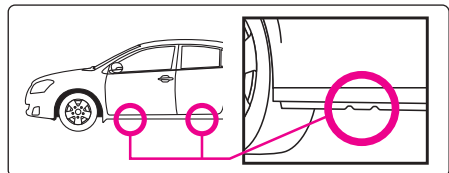
- 本製品を用途以外の目的で使用しないでください。
- 本製品を、分解・改造しないでください。
- 本製品は自動車用ジャッキアップ又はダウンする為だけに専用設計されており、決して車両を持ち上げたまま維持する為のみではありません。
- パワーユニット部の安全弁は出荷時に安全荷重に調整されている為、絶対に触らないでください。
- 本製品の最大耐荷重は3t(3000kg)です。最大耐荷重以下で使用してください。耐荷重以上の荷重をかけると、本製品が荷重に耐えられず破損し、車両が落下する場合があります。
- 本製品を使用する前に、無負荷状態でジャッキアップ・ダウンテストを行ってください。もし不具合があれば、使用せずに、販売店又は弊社までご連絡ください。
- 電子制御エアサスペンション装着車は、ジャッキアップ前に必ず車両の取扱説明書をご確認の上作業をしてください。車高がかわり思わぬ事故につながる恐れがあります。
- 自動車をジャッキアップ又はダウンする際、車両の周囲3m以内の人(特に子供)や物、他の車両等がないことを確認してから作業を行ってください。
- 使用前又は使用中、本製品に異常が発生した場合(オイル漏れ、変形、動きが悪い等)は、ただちに使用を中止し、販売店又は弊社までご連絡ください。
- ジャッキアップする際は、必ず水平で強固な場所で行ってください。水平でない場所、接地面が軟弱な場所でジャッキアップすると、荷重により本製品が傾き、車両が落下する場合があります。
- ジャッキアップ中にジャッキが前進しない場合は、ただちに使用を中止し、地面やジャッキの車輪を確認してください。水平で強固な場所でも、小石等によりジャッキの移動を妨げ、ジャッキに大きな負担がかかって破損し、車両が落下する場合があります。
- ジャッキアップする前に必ず「パーキングブレーキ」を確実にかけ、AT車なら「Pポジション」、MT車なら「1速又はRギヤ」にしてください。
- ジャッキアップする場合は安全の為、必ず輪止め、ジャッキスタンドを使用してください。
- ジャッキアップする際は、必ず車載の取扱説明書でジャッキセット位置を確認してから作業をしてください。
- 車載の取扱説明書に記載されているジャッキセット位置でジャッキアップしても、車両によっては重量/バランスの関係で、ジャッキアップするにつれて斜めになる場合があります。
- 本製品はジャッキアップするにつれて前進する為、作業する高さ(ジャッキスタンドでの維持、タイヤ脱着可能な高さ)になるまで、必ずジャッキと車両の状態を確認しながらジャッキアップしてください。
- ジャッキアップの際は車のタイヤをまっすぐの状態にして、ジャッキを車体に対してまっすぐに入れてください。
- ジャッキアップした状態のまま車体に衝撃を与えないでください。
- ジャッキアップ中にリリースバルブを調整しないでください。
- 車両をジャッキアップ中に、その場から離れないでください。
- 作業中は適時、周囲に人や物等がないか確認してください。
- 本製品での作業中に、車両の下に頭や体を入れしないでください。万一、ジャッキセット位置からサドルがずれ落下した場合、車両や本製品の破損ばかりではなく、ケガや人命にかかわる重大な事故を引き起こす原因となります。
- フロント又はリヤからジャッキアップした後、ジャッキスタンドで車両を固定してから作業を行ってください。本製品だけで支えた状態での作業は、車両のバランスが非常に悪く落下する場合があります。
- 本製品を含む2台以上のジャッキの同時使用は非常に危険です。絶対にしないでください。
- ジャッキアップ中にジャッキセット位置と本製品のサドルがずれないように注意してください。ずれたままジャッキアップを続けるとサドルがはずれ、車両や本製品の破損ばかりではなく、ケガや人命にかかわる重大な事故を引き起こす原因となります。
- ジャッキダウンする際は、車両が急激に下りないように必ずリリースバルブをゆっくりと回し、車両を下ろしてください。
- 一部の車種でジャッキセット位置の形状や位置等により使用できない場合があります。
- ジャッキセット位置の中心が必ずサドルの中央にかかるようにご使用ください。

注意

重要

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、及び物的(車両等)損害の発生が想定される内容を示しています。

- 本製品は-20℃~45℃の範囲の温度環境で使用してください。
- 本製品を業務用で使用しないでください。
- ジャッキダウン中に、本製品の可動部分に手等がふれると、はさまれる危険性がある為、ふれないようにしてください。
- 本製品を持ち運ぶ際は、本体のすきま等で手や足等をはさまないように十分気をつけて取り扱ってください。
- 本製品を持ち運ぶ際に重いと感じた場合は、無理に一人で運ばないでください。
- 本製品のハンドルはジャッキアップ・ダウン時以外は、接触防止の為、必ずハンドルスリーブからはずしてください。
- 荷物や人を乗せたままジャッキアップしないでください。
- 本製品の使用前又は使用後には、必ず各部に問題がないか確認してください。
- ジャッキオイルは適時交換してください。
- 自動車のエンジンをかけたままで使用しないでください。
- 本製品を長時間倒したり、寝かせたりして保管しないでください。オイル漏れの原因となります。
- 下記形状等の車載ジャッキ用ジャッキセット位置でのご使用は、車両を破損させる場合があります。



② ジャッキの使用条件

✕ 下記のような場合は使用できません

柔らかい地面は
めり込んで
進まない

凸凹な地面は
前に進まない

傾斜した場所
傾斜した場所や
勾配のある道路
では使用しない
でください。

タイヤの向きが
まっすぐになっていない

ジャッキの向きが
まっすぐになっていない

○ 下記のように対応して使用してください

堅固な
場所

鋼板等の
堅固な
板を敷く

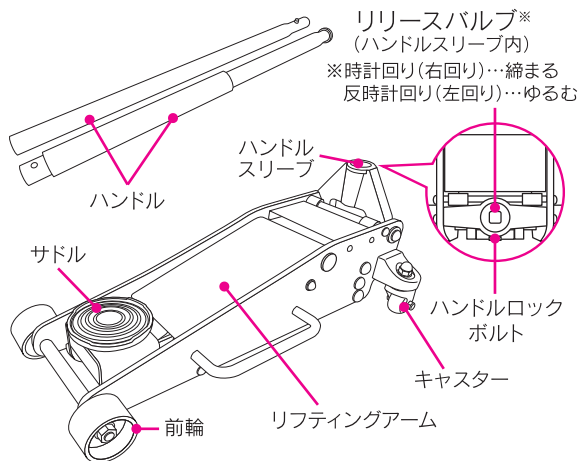
水平で
堅固な場所

タイヤ、ジャッキの向きを
まっすぐにする

③ 使用用途

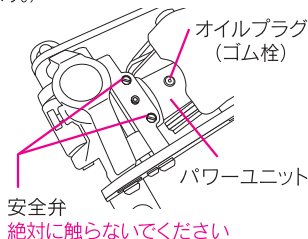
本製品は自動車のタイヤ交換や整備の際に自動車をジャッキスタンド等で維持させる為に、ジャッキアップ又は、ジャッキダウンさせる目的で使用するジャッキです。
本製品はジャッキアップ状態を維持したままでの作業等には使用できません。

④ 各部の名称

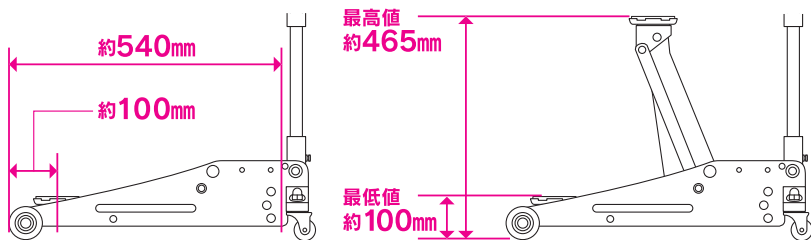


安全弁について

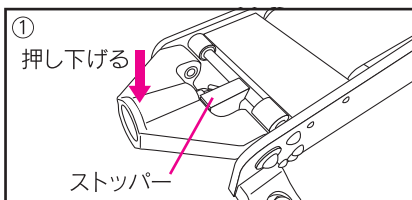
本製品には安全弁が付いており、出荷時に安全荷重に調整されている為、絶対に触らないでください。
(ジャッキに安全荷重以上の負荷がかかった場合、作動しないようになっていきます。)



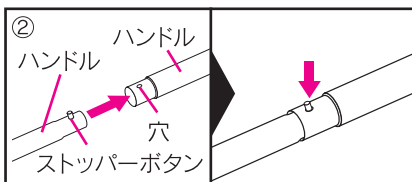
⑤ 有効範囲



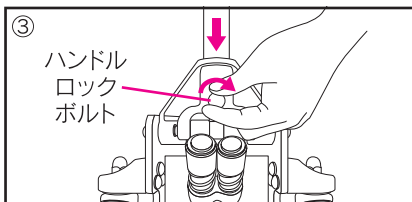
⑥ 使用前の準備



- ① ハンドルスリーブの差し込み部をしっかり押し下げ、ストッパーをはずす。
※ストッパーをはずすときに、ハンドルスリーブ部が跳ね返り非常に危険ですので、ご注意ください。



- ② ハンドルのストッパーボタンを押しながら、穴とあうように差し込む。



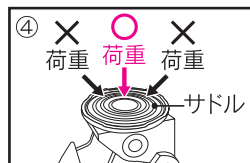
- ③ ハンドルをハンドルスリーブに差し込みハンドルロックボルトでしっかり固定する。

⑦ フロント・リヤからのジャッキアップ手順 ※説明はフロントジャッキアップの場合です。

- ① パーキングブレーキを確実にかけ、タイヤに輪止めをセットする。
② 水平で強固な場所にジャッキを置き、サドルがジャッキセット位置*の真下にくるようにジャッキを移動する。
*ジャッキセット位置: 車載の取扱説明書で確認してください。

- ③ リリースバルブを右回り(時計回り)に回してリリースバルブをしっかり締める。
※リリースバルブの締め付けが不十分な場合はジャッキアップができません。

- ④ ハンドルを上下に動かし、サドルをジャッキセット位置付近まで上昇させ一度停止し、ジャッキセット位置の中心がサドルの中央にかかることを確認する。

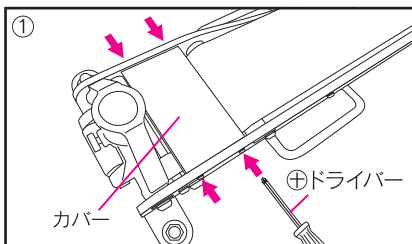


- ⑤確認後、ハンドルを上下に動かし、車両を上昇させ、ジャッキスタンドが車両のジャッキセット位置にセットできるまで上げる。
 ※サドルが全く上がらない場合は、P.6の「故障かと思った時」の①を参照してください。
 ※サドルが途中でまじか上がらない場合は、P.6の「故障かと思った時」の②を参照してください。
 ※サドルが自然に下がる場合は、P.6の「故障かと思った時」の③を参照してください。
- ⑥ジャッキスタンドを車両のジャッキセット位置の真下になるよう合わせて置き、ジャッキスタンドが車両を維持するまでリリースバルブを左回り(反時計回り)にゆっくり回し、ジャッキダウンする。
 ※リリースバルブをゆるめる際は、締めた状態から3回転以上回さないでください。故障の原因になります。
- ⑦作業後、再びジャッキをジャッキセット位置まで移動させ、リリースバルブを右回り(時計回り)に回してリリースバルブをしっかりと締め、ジャッキスタンドが取りはずせる位置までジャッキアップする。
 ※リリースバルブの締め付けが不十分な場合はジャッキアップができません。
- ⑧ジャッキスタンドを取りはずし、リリースバルブを左回り(反時計回り)にゆっくり回しジャッキダウンする。
 ※リリースバルブをゆるめる際は、締めた状態から3回転以上回さないでください。故障の原因になります。
 ※サドルが途中でまじか下がらない場合は、P.6の「故障かと思った時」の④を参照してください。
 ※サドルが下がりきらない場合は、P.6の「故障かと思った時」の⑤を参照してください。
- ⑨作業が終了したらサドルやリフティングアーム、フレーム等に付着した泥、オイル、グリス、水滴等の汚れをきれいに拭き取る。

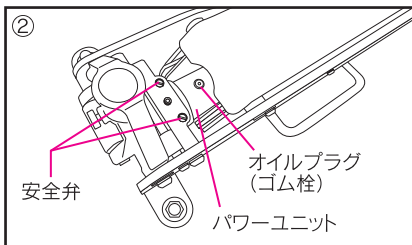
⑧ お手入れ

- 本製品を使用しないときは、錆などによる作動不良防止の為、リフティングアームを最低位置に下げておいてください。
- 本製品は常にきれいにし、可動部に適時注油してください。
- オイルの量が減少した場合、適正量を補充してください。
- 保管する際は、錆や作動不良など故障の原因になるので、雨や雪の当たるところ及び湿気の多いところには保管しないでください。
- 本製品を長時間使用しない場合は、リリースバルブ、オイルプラグ等がしっかりと締まっているか確認してください。

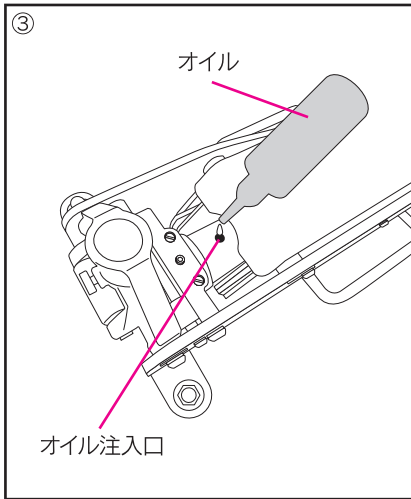
⑨ ジャッキオイルの補充及び点検方法



- ① ⊕ドライバーでネジ4箇所をはずし、カバーをはずす。

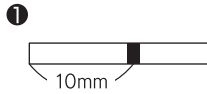


- ②リフティングアームを最低位置まで下げ、平らな場所でオイルプラグをはずす。
 ※安全弁は、絶対に触らないでください。

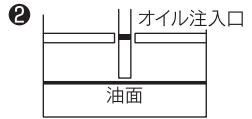


- ③ オイル量を確認する。
 オイル注入口から油面まで約10mm以上の空間があれば、ジャッキオイルをオイル注入口から少量ずつ注入する。
 ※オイル注入中にゴミが入らないように注意してください。
 ※入れ過ぎには注意してください。
 ※ジャッキオイルの適正量は、リフティングアームを最低位置まで下げた状態でオイル注入口から油面まで約10mmの空間を設けた位置です。(約210cc)

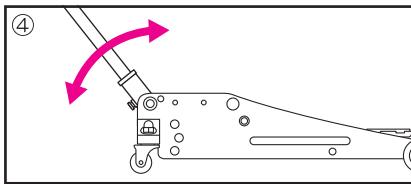
オイル量の確認方法



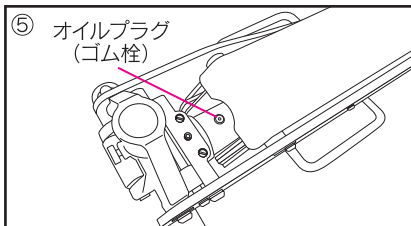
① オイル注入口に入る程度の太さの金属製の棒を準備し、定規等で先端から10mmの位置に目印をつけます。



② 金属製の棒の先端にジャッキオイルが付着しない場合はジャッキオイルが不足しています。



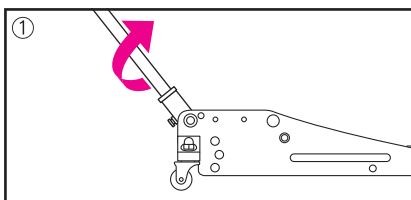
- ④ ハンドルをすばやく5～6回可動範囲いっぱい上下させる。



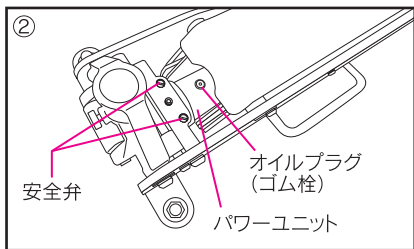
- ⑤ 作業が終了したら、オイルプラグをはめ、カバーを取り付ける。

- 火気のある場所、又はその近くでオイル交換及び補充をしないでください。
- ジャッキオイルは指定されたものを使用してください。エンジンオイルやその他のオイルは粘度等が違う為、作動不良の原因となるので絶対に使用しないでください。
 ジャッキオイル:F-62ジャッキオイル又はISO VG32相当の一般作動油を使用してください。

⑩ エアー抜きの方法

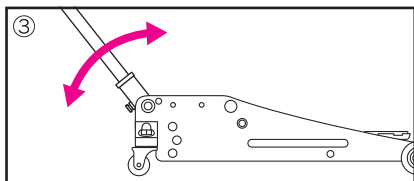


- ① リリースバルブがしっかりと締まった状態から左回り(反時計回り)に1～2回転させ、ゆるめる。
 ※リリースバルブをゆるめる際は、締めた状態から3回転以上回さないでください。故障の原因になります。



②リフティングアームを最低位置まで下げ、平らな場所でオイルプラグをはずす。

※安全弁は、絶対に触らないでください。



③ハンドルをすばやく5～6回可動範囲いっぱい上下させる。

作業が終了したら、オイルプラグをはめ、カバーを取り付け、リリースバルブをしっかりと締める。

⑪ 故障かなと思った時

| | 症 状 | 原 因 | 対 処 |
|---|------------|---------------------------|------------------------------------|
| ① | 全く上がらない | リリースバルブが しっかり締まっていますか。 | リリースバルブを しっかり締めてください。 |
| | | エアアが混入していませんか。 | エアア抜きをしてください。P.5参照 |
| | | ジャッキオイルが不足していませんか。 | ジャッキオイルを適正量 補充してください。P.4参照 |
| ② | 途中でしか上がらない | ジャッキオイルが不足していませんか。 | ジャッキオイルを適正量 補充してください。P.4参照 |
| | | ジャッキオイルが 多く入り過ぎていませんか。 | 余分なジャッキオイルを抜き、 適正量にしてください。P.4参照 |
| ③ | 自然に下がる | リリースバルブが しっかり締まっていますか。 | リリースバルブを しっかり締めてください。 |
| ④ | 途中でしか下がらない | パワーユニットに問題があります。 | 販売店又は弊社までご相談ください。 |
| ⑤ | 下がりぎらない | 可動部に注油されていますか。 | 適時注油してください。 |

※その他、原因や異常箇所が判らない場合は使用を中止して、販売店又は弊社までご相談ください。

⑫ 製品仕様

| | |
|-----------|-------------------------|
| 最大耐荷重 | 3000kg(最大揚程質量) 29.4kN |
| 最低/最高地上高 | 約100mm/約465mm |
| ストローク | 約365mm |
| 本体サイズ | 約610(W)×225(H)×296(D)mm |
| 重さ | 約23.8kg |
| ハンドルサイズ | 約1250mm |
| ハンドル取付後全長 | 約1850mm |
| サドルサイズ | 約φ110×15(H)×5(厚み)mm |
| 作動油 | 油圧潤滑油(ISO VG32) |
| 油量 | 約210cc |
| 使用温度範囲 | -20℃～45℃ |